２７年度　第１号
平成２７年７月１６日発行

連合自治会ニュース

連合自治会長　　山内　満

＜今年の橋北地区重要課題は３つ＞

橋北地区連合自治会は新しい体制のなかで平成２７年度の活動がスタートし３ヶ月が過ぎました。重要課題として、その１つは旧東橋北小学校跡地について幼稚園、保育園、児童館を含め子供関連複合施設として、今年度本設計に取り組みます。

この中で施設周辺の環境整備も取り組みます。合わせて高齢者のモデル地区として施設利用を求めていきます。二つ目は川原町自治会住民皆さん方のご協力を得て橋北小学校周辺に、通学路整備を含め、生活道路の安心・安全と高齢者に優しい街づくりをめざし、「ゾーン３０」の施策を実現させます。三つ目は近鉄線高架事業の進捗に合わせ、高架下の利用、都市型公園として滝川公園の基本設計など検討します。合わせて川原町駅名のサブタイトル（例川原町ばんこの里）の検討もします。また橋北地区特有の地域環境から、災害に強い街づくりを進めていきます。そのため日常からあらゆる機会を通じ防災力を高める活動を念頭に進めていきます。

さらに、各自治会から出された土木要望については現地調査を実施して自治会配分も終り、ほぼ予算通り実行できる運びとなりました。地域の皆さん方のご指導ご協力に感謝を申し上げるとともに自治会としても皆様の期待に全力で答えていきます。

＜　「ゾーン30」について紹介させて頂きます。＞

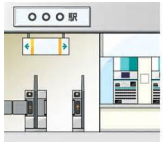
連合自治会・環境安全部会
部会長　伊藤　勝

「ゾーン３０」の概要は、自治会便りで既に紹介しています。しかし２，３年経過しているため、忘れている方も多く見えると思われます。少しだけ「ゾーン３０」について説明します。「ゾーン３０」の目的は「生活道路における歩道の安全な通行を確保する」ことであり、区域（ゾーン）内は時速３０キロ走行規則行い生活道路を確保する対策です。橋北地区における「ゾーン３０」は橋北小学校統合に絡めて、平成２４年度地域の協力によって四日市で一番早く前向きな姿勢をしめしました。その「ゾーン３０」は橋北小学校中心に東は三滝通り、西は国道１号線、南は三滝川左岸、北は橋北通りのエリアです。　工事進歩状況は、平成２５年度ゾーン入り口１１ヶ所を緑で路面表示（ゾーン３０）、入り口付近の電柱の３０キロ規制表示、そして昨年１０月には交通量多い危険な道路、三滝川左岸道路には「狭さく」表示をしました。

今年度はゾーン３０総仕上げで、通学路の道路や横断歩道を中心道路標示を実施予定です。工事は夏休みを予定です。「ゾーン３０」は住民・学童が安心・安全・快適な環境が得られるよう引き続き見守って行きたいと思います・

今後とも地域の安全などに対して取り組みますので、皆様方のご協力宜しくお願いいたします。

新自治会長の思い



えき

滝川町第二自治会
会長　　村山　孝行

私ども滝川第二自治会は、国道１号線から近鉄線までの橋北通りに面した地区です。
今年度から街灯のＬＥＤ化に取り組み、町内を防犯上安全な街づくりに務めたいと思っています。
また現在行われている近鉄高架事業が進み平成３０年３月竣工と聞いて、高架下の使い方などを自治会として、市に要望したいと思っています。

野島活断層が動いたのが原因

毎年度初めに実施している恒例の自治会親睦、研修会は２０年前（Ｈ７，１，１７）発生した阪神淡路大震災の現因にもなった、六甲・淡路断層帯にある野島活断層の一部が保存されている記念館を見学した。
私たちは巨大明石大橋を渡り、日本の建築技術の素晴らしさに驚嘆し、橋を渡る途中、北淡震災記念公園が眼下右手に飛び込んできた。

野島断層は活断層で１０００年～１万年に数回、断層が活発に移動しており、その巨大なエネルギーに驚かされた。活断層は長さ１０ｋｍにおよび１ｍ以上地盤が隆起し、現在もその１部が原型保存されている。地球の内部を見るようで自然の恐ろしさを改めて感じた。

また、阪神淡路大震災の特徴は縦揺れのため多くの家屋やビルが倒壊し被害者の多くは建物による圧死、火災による焼死であった。昭和５６年以前の建物はほとんどが倒壊した模様。北地区でも昭和５６年以前に建てられた家屋の耐震補強は急務です。
自治会にご相談下さい。
火の始末も普段からガスの元栓を閉めるよう心掛ける事が大切です。

橋北地区連合自治会	文化・広報部
発行責任者	山内　満
編集責任者	山本　勇三